

研究課題名	上部尿路感染症における腹部超音波検査の有用性
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 小児科 氏名 岡田 麻理
研究期間	倫理委員会承認日 ~ 令和 6年 6月
研究の意義・目的	<p>上部尿路感染症は小児、特に乳幼児において比較的頻度の高い疾患であり、発熱を主訴に受診した乳児の5%は尿路感染症が原因であるといわれている。小児上部尿路感染症ガイドラインの多くが腹部超音波検査の施行を推奨している。また、小児上部尿路感染症の国際ガイドラインでは排尿時膀胱尿道造影検査（VCUG）を行う基準の一つとして、腹部超音波検査所見の異常を挙げている。しかし、小児上部尿路感染症における腹部超音波検査の有用性に関して検討した報告は少ない。</p> <p>今回我々は、当院での上部尿路感染症のため入院した小児患者における腹部超音波検査結果と膀胱尿管逆流の関連性や治療方針決定に及ぼす影響について検討し、小児上部尿路感染症の治療・管理における腹部超音波検査の有用性を明らかにすることで、より効果的な画像診断や合併症予防に寄与することができると考えられる。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	2015年1月～2023年10月に当院に上部尿路感染症の診断で入院した15歳以下の小児患者の診療録を後方視的に検討する。
①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用するものの範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称	<p>①臨床情報は匿名化し、管理・解析する。他機関への提供は行わない。</p> <p>②患者背景に関する情報としては、年齢・性別を扱う。また尿路感染症に関する情報としては、腹部超音波検査所見・膀胱尿管逆流の有無と重症度・腎瘢痕の有無と重症度・発熱期間を扱う。</p> <p>③臨床情報の利用は、研究計画責任者のみとする。</p> <p>④情報の管理は研究責任者の岡田（下記参照）が行う。</p>
問合せ先	<p>当研究に自分の資料・情報利用を停止する場合のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 小児科 氏名 岡田 麻理</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525</p>